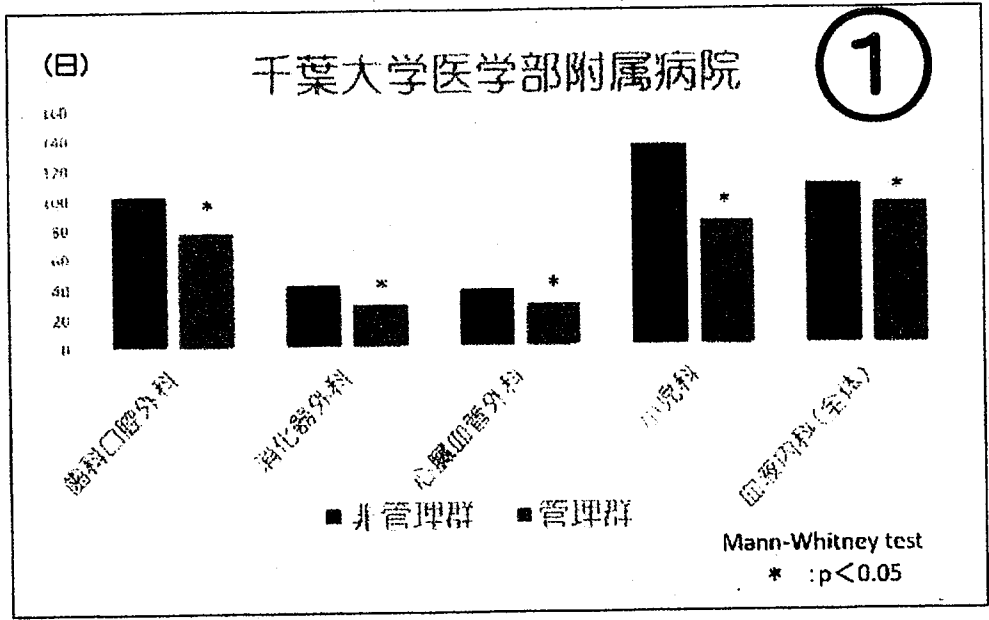


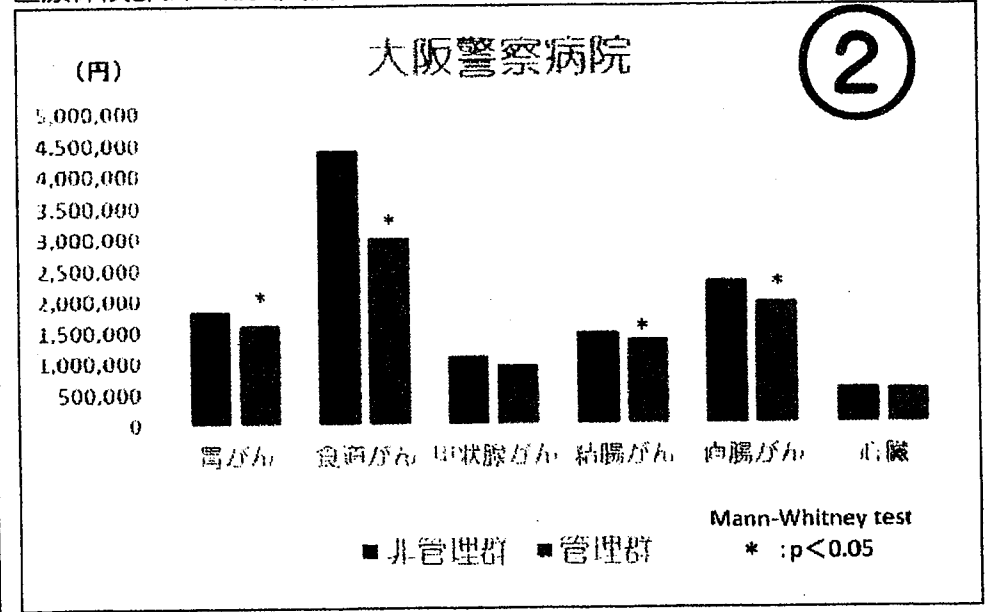
■ 歯科医療・口腔健康管理による医療の財政面での効果

■ 昨年の政策懇談会提出データから

出典:2014年11月7日 第84回 医療保険部会 堀委員提出資料より改変



歯科による口腔機能管理を実施すると
在院日数が減少する



歯科による口腔機能管理を実施すると
入院医療費が減少する

■ 骨太の方針2017

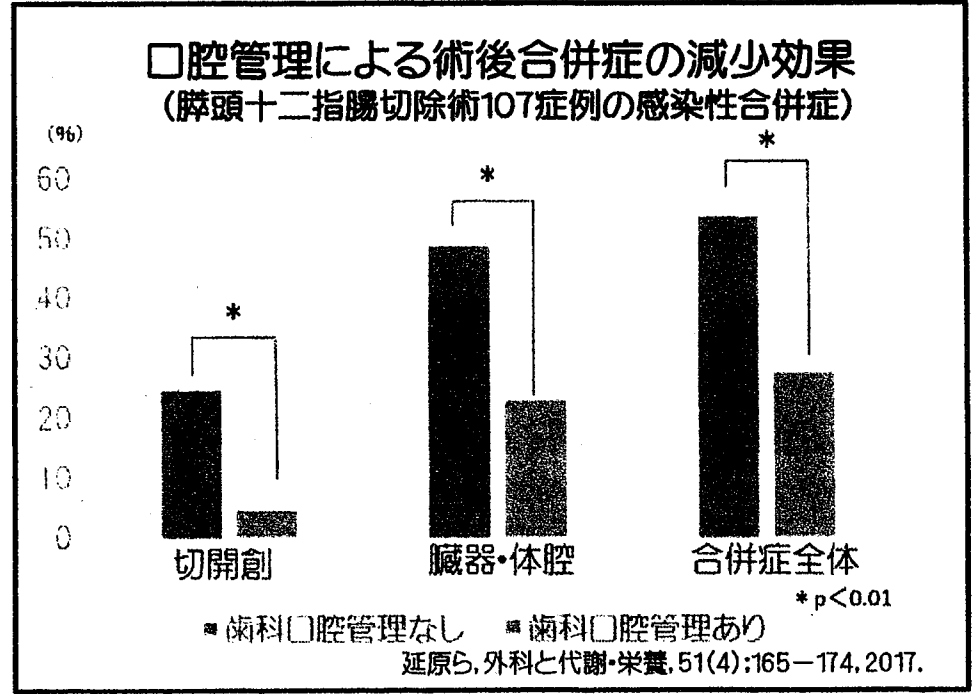
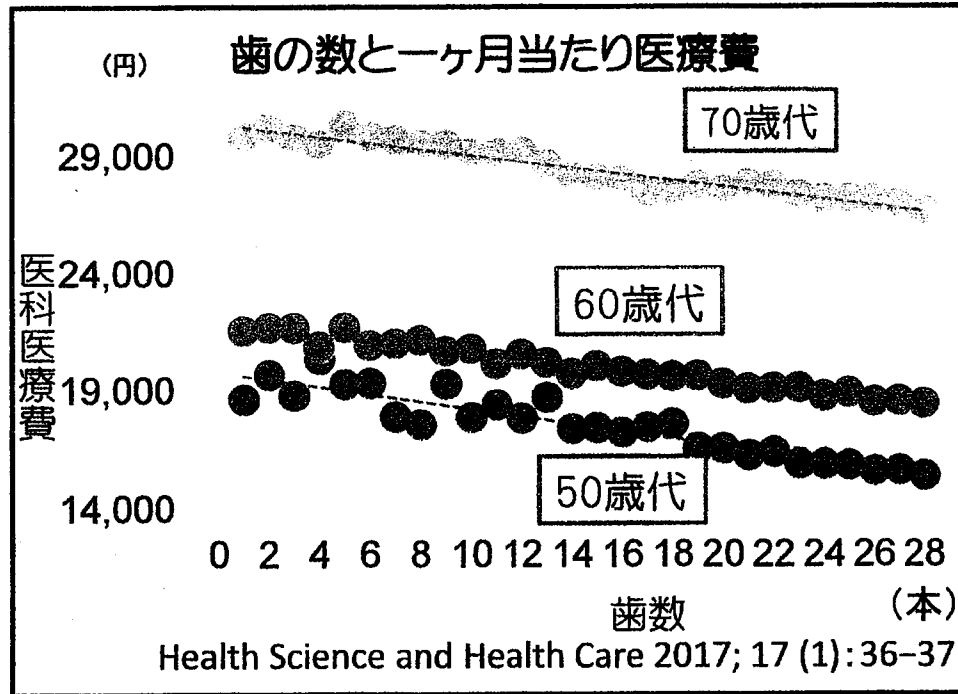
口腔の健康は全身の健康にもつながることから、生涯を通じた歯科健診の充実、入院患者や要介護者に対する口腔機能管理の推進など歯科保健医療の充実に取り組む。

■ 歯科医療・口腔健康管理による医療の財政面での効果

■ 新しいデータとして

③

④



日本歯科総合研究機構によるNDBの分析結果で、歯の数が多いほど医療費は低いことが認められる(計1,557,553件のレセプト突き合わせによる)

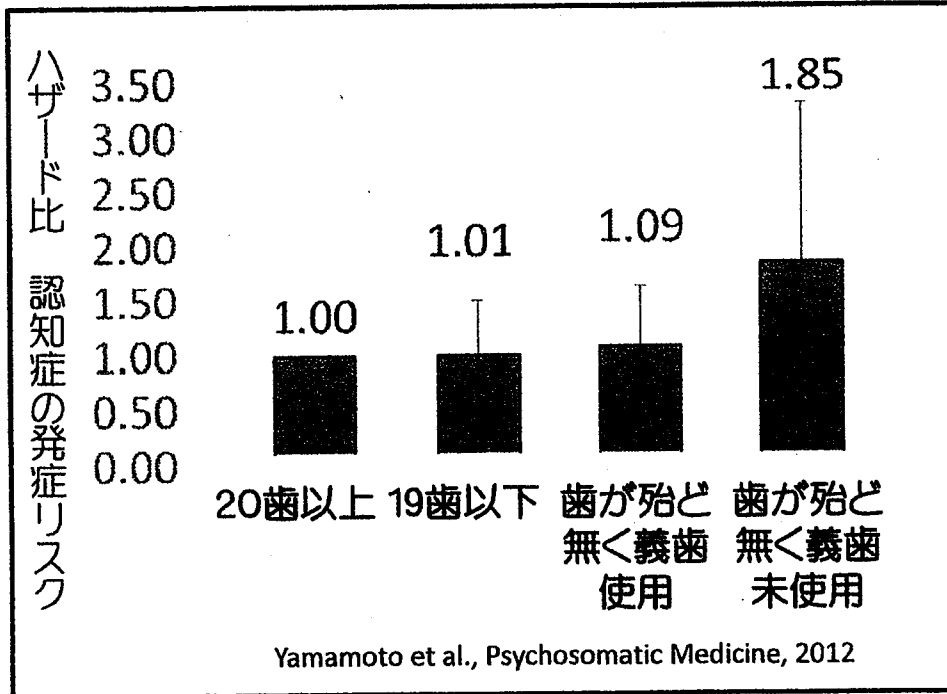
消化器外科領域の感染合併症に関する報告は少なかったが、術後合併症の多い膵頭十二指腸切除術においても口腔管理で合併症の減少が確認された

■ 歯科医療・口腔健康管理による医療の財政面での効果

■ 認知症への関係について

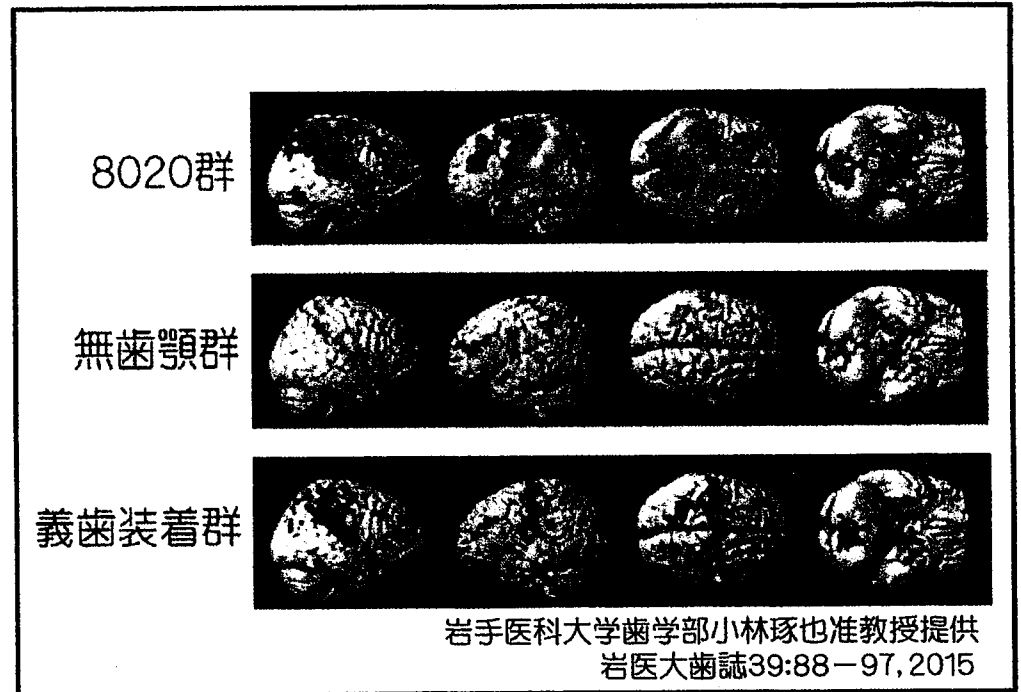
⑤

歯数・義歯使用の有無と認知症との関係



⑥

咀嚼運動時の脳賦活部位



65歳以上の健常者4425名を対象に4年間、認知症の認定状況を追跡。

① 歯が殆ど無く 義歯を使用していない人

② あまり噛めない人は、認知症発症のリスクが高くなる

歯の喪失により咀嚼時の脳活動は低下することが認められたが、歯科治療による口腔機能の回復で、再び脳を活性化させることが確認された。噛めることが認知症発症リスクを抑えることのメカニズムと考えられる